

令和元年度 第4回 日野町校区審議会議事録

項 目	内 容 記 録
1. 期 日	令和元年8月20日(火) 13:30 開会
2. 場 所	日野町役場 大会議室
3. 開会(閉会)	13:30~15:40
4. 出席委員等氏名	委員：本名俊正、山本武史、神庭賢一、下村敏彦、其山守美、 安達才智、伊田忠人、緒形明朗、水谷美鈴、高田昭徳、長谷川 弘信、内藤佳代子、遠藤公俊 事務局：生田 進、砂流誠吾、長谷部崇樹
5. 会長あいさつ 会 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートをさせていただいた。結果については事前にお配りした。保護者の現時点でのお考えを、協議の中で参考にさせていただきたい。</li> <li>・日野町全体の教育をどうしていくか、高校との連携も場合によってはとる必要があるのではないか。子どもたちをここで育て、ここに残ってもらう、または場合によっては町外で生活することもある。日野町で受けた教育が宝物になるような教育を考えていってほしい。</li> <li>・世の中が大きく変わっているが、変わらなく大事にする部分と時代に合った部分を教育の中に取り入れなければならない。情報化への対応、体験を重視することが必要。学校教育の中でできることを充実させていくことが必要ではないか。</li> <li>・外国人が多くなっている。身近なところに外国人がいる状況になっている。異文化に触れあう時代になるので、教育の中、生活の中で考えざるを得ない時代が来る。</li> <li>・今のままの教育体系でよいか、どういう子どもを育てたいのか、将来どのようになってほしいのか、そのための基本的な知識、体験を教育の中で進めていくことになる。日野町にとってかけがえのない人材なので、どのように育てていくか十分に審議していただきたい。</li> <li>・町民の方全体に課題を知っていただくことも大事。</li> </ul>
6. 報 告 会 長 課 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(1) 第3回審議会の概要について事務局からお願いします。</li> <li>・資料1 令和元年度 第3回 日野町校区審議会議事録裏面中ほど、「将来的に一貫教」の後に「育」の字を追加願いたい。</li> </ul>

<p>会 長 課 長 会 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(2) 保護者意識調査の結果についてお願いします。</li> <li>・資料2 日野町の学校のあり方に関する意識調査回答をグラフ化した。</li> <li>・他に児童推移の資料を準備いただいている。児童生徒数は徐々に減っている。まち全体としても人口が減っている。教育とあわせてまちづくりの観点も頭においていただき討論いただきたい。</li> </ul>
<p>7. 協 議</p> <p>会 長 委 員 課 長 委 員 委 員 委 員 委 員 委 員 委 員 委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者の意識もあわせてご意見をいただきたい。</li> <li>・その前に質問はないか。</li> <li>・未就学児の保護者の意識の集計があれば教えてほしい。</li> <li>・集計していないので、後で回答する。</li> <li>・未就学児の中にも黒坂、根雨地区の保護者がいるので、それぞれの回答の割合を教えてほしい。</li> <li>・アンケート結果については、思っていたとおり。深く考えておられる保護者が多い。これからの子どもたちにどのような環境をつくってやれるのか。アンケート結果は参考にしつつ、考えさせていただきたい。</li> <li>・同じような思いを抱きつつ会に出ていたので、同調するところが多い。地域、家庭をしっかりと支えていきたいので、保護者の思いをしっかりと受け止めていきたい。</li> <li>・結果は予想どおり。先延ばしの問題ではなくすぐそこまで来ているという意見があったが、同じ意見。早急に結論をだすべきだ。</li> <li>・教育もどんどん変わっていく。意見をちゃんとすくいとっていけば、今後につながる。</li> <li>・人数のことだけを考えると、早く一つにする方がよいと思う。勉強は手厚く見てもらえているが、みんなで何かするというところでは、人数が多い方がよいのか。</li> <li>・保護者に現状などについては伝わっている。今のままではなくて、別の形の学校のあり方が必要との認識をもっている。あくまで参考資料として使わせてもらうので、多数決で決まることはないと説明させていただいている。小1、中1または義務教育学校の2点で協議すべきではないか。</li> <li>・黒坂、根雨で温度差がある。アンケート結果の上で、どういう思いで保護者がいるかを知ってほしい。安易な気持ちで選択しているわけではない。子どもの満足をとるのか幸せをと</li> </ul>

<p>委員</p>	<p>るのか。満足だけでよいのか。幸せとはなんぞや。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予想どおり。黒坂の人は、統合するなら根雨だろうなという思いがあるのでは。場所がどこになるのかはとても大きい。日南で小学校が1つになり、だんだん地域がどうなったかをみてきた。日野町全体の人口が少なくなり、交通機関は発達。日南のように中心地をつくってやっていく、保育所まで併せてそういうエリアだとしていくのであれば、そういう考えもありか。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体集計結果は重たい数字。時代の転換期、児童生徒の減少、将来を決めるときに、多くの人の変化を望んでいるということを受け止めるべき。未就学児の保護者の意見を大事にしたい。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校区別の違いは予想どおり。義務教育学校への支持が思ったほどないのは意外。中学校の方が、子どもがどんどん減る影響を受けていく。そのあたりをしっかりと見ていく。学校だけの問題ではなく、放課後の見守り等学校以外のところもトータルで考えたい方向性を決めていくことで、納得性が得られるのではないか。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少し意外。コミュニティ・スクール、義務教育学校について話があったにも関わらず、この結果は残念。教委、学校は一緒になって啓発していかないとこの問題は進展しない。子どもの将来どんな力をつけたいか、それを伸ばすにはどんな学校が良いのかを前提にして話を進めていくべきだ。これから必要な学力を身につけるには、できるだけ数が多い中で、多様な意見を出し合う中で学んでいくのではないか。目の前の中学生の姿からも学ぶ。地域の人との交流の中で学ぶ。土曜授業の中で、保護者、地域の人との協力も得ながら、合同学習等に取り組み、これからの学校はどうあるべきか考えるために、保護者、地域の人に見てもらいたい。学校に馴染めない子がいるのなら、そういう子に目を向けてもらうような指導をしていただきたい。</li> </ul>
<p>委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・勤めた学校の保護者の考え、地域性を考えると、それぞれの考えにそうだなと思う。江府町では、分離型義務教育学校はどうかという話が出ている。利便性を考えれば、施設一体型が理想的。子どもたちの視点にあてていくと、求められている子どもたちの姿を頭に入れ学校教育を考えてみたときに、義務教育学校というものがなぜ出てきたのかということ、もう一度考えておく必要がある。世の中の流れ、子どもたち</li> </ul>

<p>会 長</p>	<p>につけたい力を念頭に考えていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>感想を聞かせていただいた。予想どおりだと感じた。一番影響が出てくるのは中学校。小さな中学校の運営は大変。移住してもらうことも考えれば、魅力ある学校をつくることが必要。今よりもさらに魅力ある学校を模索するのも一つかなと思う。子どもは、身近な子どもから影響を受ける。子ども同士の中に教育力がある。ある程度の集団は必要だと思う。日野町の教育、日野町の将来を担っている。魅力ある教育をつくるべき。長い人生を考えると、美術、音楽、技術など、小さい時にきっかけを学んでおくと、将来につながるのではないか。放課後どうするかも重要なこと。地域で支援する、指導員を置く、などして特別な学びを考えておく必要がある。地域の人と一緒に学校を魅力化する。学校を核とした地域づくりをすることが大事なのではないか。魅力ある学校教育をめざすことが、この町にとっては良いのではないか。</li> </ul>
<p>課 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>最初の質問に答えさせていただきます。</li> <li>今のまま 6名 小1、中1 13名、義務教育学校等 9名 その他1名 分からない2名</li> <li>黒坂地区7 根雨地区24</li> <li>教育委員会として発言させていただきたい。特に義務教育学校を推し進めるようなことは言っていない。一つの学校のスタイルとして、義務教育学校があるということを経験提供した。</li> </ul>
<p>会 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもたちにどんな力を付けたいかということについてご意見を伺いたい。</li> </ul>
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どこにいても、生きる力、ものごとをより正しく、より深く、より広く判断したり考えたりできる力をもってほしい。そのための環境を整えてやりたい。高校との連携、地域の人々の支援等も。子どもたちが自分で考え教えあい分かり合えるのが、次の力につながる。集団思考をするにはある程度の人数が必要。中学生の姿を見て小学生が学ぶ。専門的なより深まった学習場面をつくってやりたい。</li> </ul>
<p>委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学力は絶対条件。節目節目で、数字で表される学力は避けて通れない。その学力が身についていることを前提に、他者と関わり合いながら問題を解決していく、自分の考えを述べていく、そういう子どもたちを育てたい。周りにどう関わっていくかという力を付けていくのは必須。生き抜いていく力を身につけていくのが学校の務め。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっともっと切磋琢磨をして磨きあいをしてさらにさらに伸びあっていきたい。知徳体のバランスのとれた子どもたちを磨きあいの中で育てていく。自尊心が低い傾向がある。地域を誇れる、この町が好きな子どもたちを育てていきたい。子どもたちを集約しながら、切磋琢磨する場を与えるべき。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日野町に生きて、日野町を創っていく子どもたちを育てたい。総合力。自立して生活できる、自分で決定できる、選択できる力が必要。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・切磋琢磨は、他人と競争する意味合いではない。一人でもできる。少人数でもできることだと思う。心の面を育てる教育。感覚的なものはAIではできない。判断基準がしっかりしていないといけない。判断基準を鍛えるためにもおとなが見本になる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学力がまず第1にあると信じている。平均ぐらいの学力は付けていかないといけない。勉強に向かっている子どもであってほしい。いろいろな人と折り合いを付けていく能力。いろいろな人と関わる経験を中学卒業までにたくさんさせてやりたい。それなりの人数でないと得られないのではないか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・楽しく学校に行き、楽しい人生を送ってほしい。人のことを思いやれる、人数の少ない中で、みんなで助け合っていてほしい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎学力、中学生までで決まるということはある。大学で進む方向を決めたのは好奇心。子どもたちに、好奇心のもとになる種を渡してやれる教育をしてほしい。学校だけではできない。地域の人とのかかわりの中で。普段学校に顔を出さない人たちと出会えるような取り組みができる学校になってほしい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最低限の学力、知徳体が大事。特色のあるというのも向かう姿。菅福小の統合時、絶対反対だったが、20人を切ると学校運営が難しいだろうと保護者同士で話し合っって統合となった。菅福小の伝統を引き継いでもらった。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・力をつけても県外に出てしまう傾向が強い。地元を愛し、地元にかえってくる教育をしてほしい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理想とする子どもたちの像はおっしゃるとおりで、同じ方向だと思う。小学校時代、統合で根雨小に出た。統合後、楽しく幸せに生活できた。小さい学校では団体行動ができない。</li> </ul>

<p>委 員</p>	<p>心の強い子はどこいくところでも対応できるが、弱い子はどうか。町のみなさんが同じ方向を向いて一つの学校をつくる、保護者、子どもたちがこの学校に来てよかったと思える、日野町の学校に行きたいと思ってもらえる魅力ある学校をつくっていく方向性が出せたらいい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨日、板井原川で体験教室をした。最初はどうやって生き物を探したらいいか分からなかったが、徐々に深いところに入っていった。下の子が上の子に自然に聞いている。上の子は得意そうに下の子を教え、一緒になって喜んでいる。自己肯定感はそういうところで育っているのではないか。子どもたちの力をつける、やりたいこと、好奇心がわいてくるようなことを仕掛けていくと、結果学力がついてきた。自分自身が一人で勉強してきたこともあったが、社会性が育たないというのは、一概にそうだとは思わない。場所を限定して考えるのではなく、体験学習をするには、どんな土地がよいのかというように考えてもよいのではないか。保小中一貫教育の経験もいかしていければ子どもたちの生活がよりよくなっていくのではないか。</li> </ul>
<p>会 長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みなさんのお考えは一緒だと感じた。町民のみなさんが納得されて、自分たちも協力しよう、子どもたちも幸せになっていく、力をつけていく学校をめざしていくべき。時間はそんなにはないが、十分に審議をして結論を出していきたい。</li> <li>・人類があらゆるところに住み着いた要因は3つある。伝え合う、助け合う。夢を持つ。私たちは夢をもつべきだと思う。好奇心がありそれに向けて努力する、きっかけをもつ学校であれば、子どもたちは幸せだと思う。将来自立して好奇心をもって自分の人生を楽しくしていくお手伝いができる学校であつたらいいと思う。そういう学校ができれば、住民も増えていくのではないか。住んでいる人が希望が持てる、みんなで応援できる学校をめざすのがよい。今のままでよいというのでよいのか。新しい学校を夢見てもよいのではないか。もう少し審議し、住民の皆さんにも納得していただける答申が出せたらいい。</li> </ul>
<p>委 員 委 員 会 長 委 員</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もう少し意見があれば。</li> <li>・一貫校にして、中体連の大会に小学生が出られるのか？</li> <li>・それはできない。</li> <li>・そこの区分はあると思う。</li> <li>・試合に出られないと、部活をする意味が半減する。</li> </ul>

会 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一貫校でなくても小学生を招いての活動はできるのでは。</li> <li>・一貫校であれば、普段の活動としてできるのではないか。</li> <li>・どういう形になったとしても、地域の人との連携は必要になる。放課後指導していただくような仕組みは大切になる。</li> <li>・結論に向けてはもう少し討議をしたい。</li> <li>・次回に向けて、事務局よりお願いします。</li> </ul>
課 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・答申に向けてもう少し審議をしていただく必要があると思う。9月議会に、補正予算を上げさせていただく。</li> <li>・今後どういった調査が必要なのか議論いただき、事務局側として準備する必要があるものについてお示しいただきたい。</li> </ul>
会 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次回以降の議論あるいは準備いただくものについて意見があれば。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意識調査の中で、設置場所について別途お考えを聞かせていただくとなっている。避けてとおれない。答申の中に盛り込むべきだと思うが、どう進めるのか。</li> </ul>
会 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい学校となれば、設置場所についていくつかの候補が出てくる。ある程度の案を出していきたい。それまでに、どういう学校をつくるかということを決めていきたい。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者はまた聞かれるという思いでいる。アンケート調査が必要なのでは。</li> </ul>
会 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要であるが、それまでの議論にもう少し時間がかかる。どんな学校をつくるかを詰めたい。もう少し議論を深めたい。</li> <li>・次回、この審議会として学校を見学したい。その後で会議をしたい。短い時間でも授業風景を見ていただきたい。</li> </ul>
委 員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜学習等で合同学習をやってみて、それを見てもらうのはどうか。保護者が、多い人数の中で取り組んだ方がよいという思いが持てるように、取り組んでほしい。設置場所について、どれだけの学級数で考えていくのか、どういう施設をどういく規模で作るのか、財政的なことも考えて、事務局としての案があれば。</li> </ul>
課 長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜授業についてはすでに計画を立てているので、新たに実施するのは難しい。ほこすぎ教室で6年生が合同で授業をすと思うので、そういう場面を公開いただければ様子を見ていただける。</li> <li>・施設一体型の施設にしたらという試算的なものは、まったく持ち合わせていないので提示できない。この審議会においては、どういった教育を行うのにどういった場所が適切かを審議いただきたい。</li> </ul>

委員	・ほこすぎ教室は中学校の教育を見学するのではいか。
課長	・小学校の授業をする時間、中学校の授業を体験する時間がある。
委員	・義務教育学校のメリット、デメリットを具体的にあげていただき、共通理解をすることが必要ではないか。
会長	・項目立てて、次回示したい。
委員	・意識調査の結果について、保護者に伝えてよいか。何らかの形で返すのか。
課長	・公開している会議で議事録も HP に掲載しているので、アンケート結果の数値は公開しようと考えているが、アンケート結果の取扱いについては、審議会で協議いただきたい。
委員	・事務局案でよい。
委員	・黒坂小学校が立っている土地は、(一部)借地であることを知っておいていただきたい。
会長	・魅力ある学校をめざすべき。現状に不満はないとは思いますが、先々いろいろな課題が出てくる。

令和元年 8 月 20 日

日野町校区審議会